

宮城県考古学会連絡紙

第64号

2015年7月4日発行

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

東北大学大学院文学研究科考古学研究室 宮城県考古学会事務局

栗原市入の沢遺跡の保存に関する要望書の提出

宮城県栗原市入の沢遺跡は、国道4号線築館バイパス工事に伴い昨年度に宮城県教育委員会により発掘調査が行われ、古墳時代前期の防御性の高い集落であり、きわめて保存状態が良好で重要な遺跡であることが判明しました。

宮城県考古学会は、入の沢遺跡の学術的重要性に鑑み、遺跡保存の要望書を下記のとおり関係各機関(①国土交通省東北地方整備局長、②国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所長、③宮城県知事、④宮城県教育委員会教育長、⑤栗原市長、⑥栗原市教育委員会教育長)に平成27年6月18日付けで提出し、宮城県政記者クラブ加盟社にも連絡しました。この経緯と要望書の内容は、6月24日に宮城県考古学会WEBにも掲載しましたので、連絡紙でもお知らせします。

【要望書①・②】

宮学会 H27 第11号
平成27年6月18日

国土交通省東北地方整備局長 縄田 正様
国土交通省東北地方整備局

仙台河川国道事務所長 宮田 忠明様
宮城県考古学会 会長 田中則和

栗原市入の沢遺跡の保存に関する要望書

宮城県栗原市入の沢遺跡は、国道4号線築館バイパス工事に伴い昨年度に宮城県教育委員会により発掘調査が行われ、古墳時代前期の防御性の高い集落であり、きわめて保存状態が良好で重要な遺跡であることが判明しました。

入の沢遺跡は、丘陵頂部を大規模な環状にめぐる溝で囲い、その内側には丸太を立て並べた塀が巡っています。溝の外側には、土塁が造られていた可能性も指摘されています。囲われた内部には、竪穴建物が密集して造られており、多くが火災で焼失しています。このような遺跡の構成は、防御を強く意識したものであると言えます。

竪穴建物の一つからは、鏡をはじめ様々な玉類や鉄器が大量に出土しています。他から出土したものを合わせると、鏡は4点出土しています。当時の社会において権威を示すこのような遺物の存在は、この遺跡において当地域の政治的リーダーが活躍したことを意味します。なおかつ、それが防御性の高

い施設で守られていたことを示しています。

このような遺跡は、古墳時代には類例が知られていません。古墳時代には、宮城県北部は古墳文化が広がった北端の地であり、北海道に源を有し南下してきた続縄文文化と対峙する地域でした。入の沢遺跡の、他に例の無い防御を強く意図した様相は、当地域が異なる文化との境界領域であったということが強く関係していると考えられます。そのため、当時「倭国」と呼ばれた、古墳時代の和政権と外部との関係を考える上で、重要な位置を占める遺跡です。また、入の沢遺跡の北側に奈良・平安時代の城柵遺跡である伊治城が立地することは、この場所が、古墳時代から一貫して交通の要衝であり、南北文化のクロスロードであったことを示しています。

古墳時代に北方世界との窓口と言える位置を占めた宮城県の歴史を考える上で、入の沢遺跡はかけがえのない遺跡です。古墳時代の政治的リーダーたちの活躍を、日常の生活の場である集落遺跡から解明できるという点において、他に例のない重要な遺跡です。遺構の保存状態もきわめて良好で、防御施設の様子が詳しく判る点でも、その学術的重要性は高いと言えます。以上のような入の沢遺跡の重要性に鑑み、宮城県考古学会では下記のとおり要望いたします。

記

1. バイパス計画を変更し、入の沢遺跡の遺構の現状保存を図ること。

【要望書③・④・⑤・⑥】

宮学会 H27 第12～15号
平成27年6月18日

宮城県知事 村井 嘉浩様
宮城県教育委員会教育長 高橋 仁様
栗原市長 佐藤 勇様
栗原市教育委員会教育長 亀井 芳光様
宮城県考古学会 会長 田中則和

栗原市入の沢遺跡の保存に関する要望書
(国土交通省東北地方整備局長宛と同文)

記

1. 入の沢遺跡の遺構の現状保存を図ること。
2. 入の沢遺跡の国史跡指定を視野に入れ、将来に向けた整備と活用を図ること

入の沢遺跡関連公開シンポジウム

東北学院大学アジア流域文化研究所 公開シンポジウム

「古代倭国北縁の軌轢と交流

—栗原市入の沢遺跡で何が起きたか—

【開催日】平成27年9月21日(月・祝)～9月22日(火・休)

【会場】栗原文化会館(栗原市築館高田2丁目1-10)

【趣旨】日本列島では、3世紀中頃に前方後円墳が出現し、4世紀のうちには南は九州志布志湾沿岸、北は宮城県北部まで広く分布するようになります。前方後円墳は大和王権によって作り出されたもので、全国に急速に広がる理由は、大和王権と地方の勢力が政治的に結びつきその証として大和王権が地方の勢力に前方後円墳の築造を求めたからだと考えられています。つまり、前方後円墳の分布は日本列島で初めて広域を支配する政治的連合体の出現と広がりを示すのです。

さて、東北地方でも4世紀に宮城県北部まで古墳が築造され、大和などと同じ生活の仕方をした集落が確認されています。つまり、宮城県北部にまで、大和王権に連なる勢力がいたのです。大和に連なる勢力はこれまで比較的順調に広がったと考えられてきました。しかし、平成26年に宮城県栗原市入の沢遺跡が発掘調査され、まったく新しい事実が判明しました。入の沢遺跡は大溝と柵木で防御された大規模な集落です。調査が進むと、竪穴住居は火災で焼失していることが判明し、小型銅鏡、装身具など通常集落では出土しない貴重な遺物が次々に発見されました。

入の沢遺跡の調査成果はこれまでの常識を覆し、新たな東北古代史の理解を必要とすることを示しています。本シンポジウムでは調査成果をもとに入の沢遺跡でいったい何が起きていたのかを明らかにし、古代東北の新たな歴史像を求めて、出土遺物、東北北部の続縄文文化などの観点で発表、討論を行います。

【日程】

第1日 9月21日(月・祝)

10:00 開会 主催者あいさつ

東北学院大学アジア流域文化研究所長 谷口満

10:05 シンポジウム趣旨説明 辻秀人

10:15 入の沢遺跡調査成果(仮題) 宮城県文化財保護課

11:15 入の沢遺跡出土鏡を巡って(仮題)

森下章司(大手前大学)

12:00 昼食

(入の沢遺跡出土遺物解説会 宮城県文化財保護課)

13:30 入の沢遺跡出土装身具の意義(仮題)

大賀克彦(奈良女子大学)

14:15 古墳時代前期の倭国北縁の社会(仮題)

高橋誠明(大崎市教育委員会)

休憩(15分)

15:15 東北の続縄文文化(仮題)

八木光則(蝦夷研究会)

16:00 終了

第2日 9月22日(火・休)

10:00 東北地方の古墳時代の始まり

辻秀人(東北学院大学)

10:45 大和の動向と東北の古墳時代社会(仮題)

和田晴吾(立命館大学)

11:30 昼食

伊治城跡出土前期土師器展示(栗原市教育委員会所有)

13:00～15:00 討論「入の沢遺跡で何が起きたか」

1. 入の沢遺跡の調査成果

火災住居、壕、柵木、土器様相

2. 鏡、装身具出土の意味

3. 入の沢遺跡の評価

4. 入の沢遺跡の語る歴史状況

司会 辻秀人

パネリスト 宮城県文化財保護課、森下章司、大賀克彦、高橋誠明、八木光則、和田晴吾

【対象】どなたでも受講できます

【申込方法】直接会場にお越しください(受講料 無料)

【詳細】東北アジア流域文化研究所 公開シンポジウム

「古代倭国北縁の軌轢と交流」| 東北学院大学WEB

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/info/top/oc2015sp-12.html>

【問い合わせ】

東北学院大学 アジア流域文化研究所(事務担当:井上さん)

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL・FAX 022-264-6370

E-mail ryuiki@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

情報・寄稿などをお寄せ下さい！！

今年度の復興調査も進み、大きな成果があがっています。現地説明会も近々行われる予定です。本会Webサイトでも随時紹介しますが、新聞、テレビ報道にもご注目ください。

また、発掘調査、学会、イベントなど考古学に関する情報、提言などをお寄せください。

本会 Web サイト <http://www.m-kouko.net/>

【連絡先】柳澤和明(連絡紙代表幹事)

E-mail: info@m-kouko.net(宮城県考古学会)

会費の納入お願いいたします！！

会費は一般会員が4,000円、学生会員が2,000円(※)、夫婦会員が5,000円です。未納の方はお早めにお支払ください。

※平成27年5月17日総会において細則改正が承認され、学生会員の会費が変更になりました。

住所・所属等変更の際は必ずご連絡ください

連絡紙など郵送の際、居住者不明で戻って来る方が数名おられます。転居や異動で住所等が変更になった会員は、事務局まで必ず連絡をお願いします。

【会費納入・転居等連絡担当】宮城県考古学会事務局

連絡先: 022-795-6073 (FAX 兼) E-mail: info@m-kouko.net